

令和4年度

グリーンインフラモデル公園構想等作成業務委託

報告書

令和5年3月

目次

I グリーンインフラモデル3公園構想	1
1 条件整理	1
1-1 新設計画3公園の配置	1
1-2 新設計画公園の基本的な考え方	2
2 各公園の基本構想	3
2-1 (仮称)宮戸二丁目公園	3
2-2 まぼりひがし公園	11
2-3 まぼりみなみ公園	19
II グリーンインフラ事業評価レポート	26
1 グリーンインフラ事業評価の目的	26
2 グリーンインフラ事業評価の実施に向けた検討	26
2-1 小規模公園の持つ「一般的な価値」	26
2-2 雨水流出抑制便益	26
3 事業評価の方針策定及び評価に用いる数値の整理	27
3-1 事業評価の前提の整理	27
3-2 小規模都市公園事業の費用対効果分析	28
4 事業評価	28
4-1 小規模都市公園事業の費用対効果分析結果(朝霞市の一般的な小規模公園版)	28
4-2 グリーンインフラ事業の評価(雨水流出緑政便益)	35

近年、頻発する豪雨等の異常気象や自然災害を受けて防災意識や環境問題への意識が一層高まるほか、新型コロナウイルス感染症拡大を受けたライフスタイルの変化により、人々の意識は身近な公園や緑などゆとりある屋外空間や、徒歩や自転車で回遊できる空間へのニーズが高まっている。このような中、次世代を見据えた都市基盤整備や土地利用を推進する観点から、ハード・ソフト両面において、自然やみどりが有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある都市づくりを進めていくことが重要になっている。

朝霞市においては、「私が暮らし続けたいまち朝霞」のビジョンのもと、総合計画等の諸計画において、様々な世代の市民が健康で快適に暮らしを楽しむこと、身近な自然にふれあえる場や生物多様性の確保、美しい景観の保全と創出を図ること等を目標としているところである。

このような自然環境の多機能性の価値や効果に着目して、持続可能で魅力あるレジリエントな地域づくりに寄与する取組について、国においては「グリーンインフラ推進戦略」(令和元年7月)等に基づき、積極的に推進し、技術的に支援する動きもみられる。

このようなことから、朝霞市において、今般、公園やみどりを核とした先進的なグリーンインフラをモデル的に実装するため、環境、防災、コミュニティ形成といったグリーンインフラとしての機能を発揮する公園の基本構想の作成および事業化に向けた費用対効果分析を行う。あわせて、市民がより身近に朝霞市の自然環境や景観の魅力を感じられるツールとして、黒目川など緑の軸と緑地スポットをめぐる普及版の資料を作成する。